

平成29年度 学校評価報告書 横浜市立東俣野小学校

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<p>①本時の学習の流れを示したり、既習学習の資料を提示したりすることによって、子ども自身が見通しをもって計画的に学習できるようにする。</p> <p>②話すことを楽しみ、相手に聞いてもらえる安心感をもつことができるような環境作りに努めていく。</p>	<p>①見通しをもって学習に取り組むことができていたが、教材研究の時間を持つことが難しかった。</p> <p>②ペア学習やグループ学習での学び合いは、比較的できているが、全体の場での広がりや深まりに欠けてしまうことがある。目的に沿って、明確に話すことができるようになるとさらによい。</p>	B
豊かな心	<p>①学年間で、道徳科の授業を見合い、授業の展開方法や評価の視点などを学びあう機会を設ける。</p> <p>②あいさつ運動で、たてわり活動を生かして子どもたちが主体的に取り組むようにする。</p>	<p>①学年間で授業を見合ったり、学び合う機会を作ったりするなど、ある程度、全校として道徳の時間の充実を図ることができた。</p> <p>②たてわり班でのあいさつ運動がだんだんと定着してきているが、子どもたちの主体的な活動にはなっていない。</p>	B
健やかな体	<p>①ハッピースポーツ週間や体力づくりの取り組みをひと工夫し、運動の日常化に向けた環境づくりを図る。</p> <p>②生活リズムチェックカードでの実態調査を継続し、家庭と協力し基本的な生活習慣を確立させていく。</p>	<p>①ハッピースポーツ週間を通して、子どもたちは積極的に外遊びに参加することができた。しかし、運動の日常化にはつながらなかった。</p> <p>②生活リズムチェックカードを通して、望ましい生活習慣の確立に努めることができた。チェックカードの提出率自体もよくなってきている。</p>	B
児童指導	<p>①作成した学校スタンダードをもとに共通指導していくために会議等で取り組み状況を話し合う。</p> <p>②朝の全校放送や学校保健委員会をきっかけに、食育について学級指導していく。</p>	<p>①年度初めや、長期休みの前後で確認することができた。ブロックごとに共通理解を図り、確認をすることができた。</p> <p>②集会や学校保健委員会を通して、食育についての意識をもつことができた。</p>	B
特別支援教育	<p>担任、児童支援専任、級外職員、管理職が連携して、その場に応じたできる限りの指導・支援をしていく。</p>	<p>支援が必要な児童への週1時間のサポート学習は、成果があがっている。また、担任・児童支援専任・級外職員、管理職ができる限り連携し、指導・支援してきた。</p>	B
保護者・地域連携	<p>①ここ数年の実践をもとに、生活・総合の年間活動計画を作り、活動の実践記録を残す。</p> <p>②全校や各学年の行事の様子などを学校ホームページに毎月更新して知らせる。</p>	<p>①活動のふりかえりはクラスごとに行っているが、実践記録は残せていない。学年ごとに話し合いを行い、カリキュラムの見直しと作成を行っていききたい。</p> <p>②ホームページの更新はできていた。保護者へ閲覧の呼びかけができなかった。</p>	B
いじめへの対応	<p>①児童指導・支援における気になる出来事や気になる子について、毎月全職員で、その状況や対応について情報共有する。</p> <p>②だれもが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりをすすめる。</p>	<p>①毎月、職員会議の中で、気になる子について情報交換することができた。</p> <p>②学年間で、支援体制を要する児童の情報共有ができ、担任以外による支援体制をとることができた。</p>	B
人材育成・組織運営	<p>①研修の年間計画をたて、時期や状況に応じた研修を計画的に実施する。</p> <p>②学年研の時間を確保するとともに、検討内容を事前に決めて計画的にすすめる。</p>	<p>①夏季休業中に集中してしまうことになったが、計画的に校内研修を行うことができた。</p> <p>②学年研では、話し合う内容を事前に決めて、計画的に話し合うことができた。行事についても学年研で確認することができた。</p>	B
ブロック内相互評価後の気付き	<p>・昨年度まで、校外学習は貸切バスで行っていたが、公共交通機関を利用して、公共のマナーを守る学習も必要だと考えて、今年度は、3年生以上で、できる限り公共交通機関を使った校外学習を行った。ブロック内の他の学校では、以前から公共交通機関を使った校外学習を行っているので、集合・解散の方法や、電車の切符の買い方などを伺い、次年度の計画を立てる時に参考にしたいと思った。</p> <p>・生活リズムチェックカードは4年目の取組となったが、保護者の意識が高まり、継続することの大切さに気付いた。</p>		
学校関係者評価	<p>継続的な取組が効果を上げており、学校が落ち着いてきた。あいさつができる子どもも多くなり、目に余る行為を見かけることもなくなった。下校時に広がって歩いたり、自転車の乗り方が危なかったりする光景は見られるので、放課後の交通安全に留意できるとよい。特別支援学校との交流では受容的・共感的かわりができる子が多い。</p>		

学校経営中期取組目標振り返り	<p>今年度は校内重点研究を「算数科」とし、授業力向上を目指して、教職員が相互に学び合いができた。本時の学習の流れを示したり、既習学習の資料を提示したりすることもいねいに行えた。また、特別な教科：道徳でも、学年間で授業を見合い、展開方法や評価についての研修ができたので、ある程度全校として道徳の時間の充実を図ることができた。「健康啓発活動の実践」においては、養護教諭や栄養士と連携し、学校保健委員会で「食育」に取り組むことができた。メンターチームの活動も、スクールカウンセラーを講師に招いての研修会、初任研の指導案検討、体育実技研修等、工夫が見られ、スキルアップを高められた。</p> <p>全体的に、子どもたちが落ち着いて学校生活を送れるようになってきた。朝会、集会など全校で集まるときも、時間前に集まり、静かに行動がとれる子に育っている。職員同士が連携協力できる職場になってきている証と感じる。</p>
----------------	---